

第4回 千代田区スポーツ振興基本計画策定委員会 議事録

- | | | |
|-------|----------------------------|-------------|
| ■日 | 時：令和8(2026)年2月16日(月) | 18:30~19:55 |
| ■会 | 場：千代田区役所 4階 404 会議室 | |
| ■出席状況 | 出席委員 9名 | |
| ■千代田区 | 事務局 4名 | |
| ■議 | 題：(1) 前回委員会の振り返りについて | |
| | (2) 意見公募等の結果を踏まえた計画(案)について | |
| | (3) その他 | |

(議事要旨)

1. 開 会
2. 議 題

※ ●：委員からの質疑 ➤：担当者回答

(1) 前回委員会の振り返りについて

〈事務局から説明〉

●資料3の意見8により45ページの施策方針を「元気な高齢者」と修正したとあるが、「元気な」は必要か。

➤事務局) 今までは、「フレイル」等の表現を用い高齢者の支援を記載していたが、そこまでには至らず、まだ活動はでき、計画の中で掲げられている事業は自分には当てはまらないのではないかといった印象を持つ方もいるかもしれない。36ページの施策3.4に高齢者のスポーツの推進についてはうたっているが、ここで掲げられている事業はどちらかというとなフレイル予防といった体の機能が落ちてきた方を対象としている印象の施策である。まだまだ運動したいという人がこの計画からは取り残されているのではないかという指摘があったため、ここではあえて「元気な」というフレーズを付け加え、施策3.2のところに入れた。

●全体通してしっかりまとめられている。

計画の冒頭の区長の挨拶文の中に「しる」「みる」「する」「ささえる」とあるが、学校の「見方・考え方」という小学校から高等学校までの大事にしなければならない視点のうち体育については「する」「みる」「ささえる」「しる」の順番で記載されている。記載順は学習指導要領と合わせてもいいのではないか。現在、文部科学省は学習指導要領の改訂に向けて進んでおり、「見方・考え方」の文言も変えている。令和8年12月に、中央教育審議会に文部科学省の大臣が諮問し答申が出るが、その際「する」「みる」「ささえる」「しる」の文言も変更

されるため、そのことはご承知おきいただきたい。国としては「運動やスポーツを、心身の充実に果たす役割や、多様な楽しみ方の視点から捉え、自他の豊かな生活、及び、活力あふれる社会づくりにつなげること」と整理している。千代田区が求められているところとずれはないと思うが、学校教育としてはそのように動いているという認識を持っていたほうがいいのではないか。

また、5ページのニュースポーツに「ドッジボール」と「ドッチビー」が例として挙げられているが、ドッジボールをフリスビー型にしたものがドッチビーである。千代田区では「ドッチビー」に「ヂ」を使用しているが、文部科学省では「ジ」であり、「ジ」が一般的ではないか。

➤事務局) 千代田区ドッチビー協会という団体がありそこに合わせたが、その名称が全国的な運用と異なるのかもしれない。

●委員長) こだわりがあつての「ヂ」なのだろうか。

➤事務局) 千代田区はドッチビーが盛んなほうなので、協会としても一定の配慮が必要なかもしれない。どちらにすべきか、委員長と相談したい。

●日本ドッチビー協会も「ヂ」だったと思う。

●委員長) 国が途中で変えたということか。

➤事務局) フライングディスク協会及び日本ドッチビー協会では「ヂ」となっているが、国の表記は違うところで、英語に近い表記にしているのかもしれない。

●語源は「DOGGE」である。

➤事務局) ドッジボールは確かに「ジ」だが、どちらにすべきか。ドッジボールと区別するため意図的に変えてドッチビーとしたという説もあるとの記載がある。

●委員長) 文部科学省はどちらで記載しているのか。

➤事務局) 先ほど申し上げたのはドッジボールについてである。

➤委員) 私も申し上げたのはドッジボールについてである。

➤事務局) 最終的には確認し、どちらで表記するか検討する。おそらくフライングディスク協会においては、意図的にドッジボールとの差別化を図るため「ヂ」と表記している可能性もある。

●「DOGGE」ではなく「DODGE」のようだ。

➤事務局) ドッチビーもドッジボールも、どちらも日本独自の競技名のように。研究し、最終的に委員長と相談したい。

●委員長) 区長の挨拶の文言については、区長がこのように発言したということか。

➤事務局) この部分は、指摘していただいた順番に入れ替えようと思う。

委員長) 入れ替えると、基本目標の1から5の並びも変わってきってしまう。

➤事務局) 施策の順番を「しる」「みる」「する」「ささえる」でつくってしまった。

●趣旨が変わらなければいいのではないか。

●副委員長) それではこのままの形でいくということか。

➤事務局) 並べ替えた場合、取組番号が変わってきてしまう。

●副委員長) 我々も挨拶する中にこの言葉を入れる時に、統一性がないのはいかがか。決めていただければ、それに合わせて使っていきたい。今までは「しる」は後のほうで言っていた。

●委員長) 我々が言っている「しる」というのは、36ページの①のガイドブックを発行するというように、やってみることはなくても、まずはきっかけとして「知る」ということか。

➤事務局) まずは知って、見てみて、わかってきたから実際にやってみて、やってみたら面白いから支えるほうにまわろう、といった段階を踏んでいくイメージはあるのではないか。

●委員長) 学校教育では、まずはやってみてというイメージが入ってくるのかもしれないが、一般の方に対しては、まずは知ってもらうことが入ってくるという認識か。

➤委員) そのような説明ができるのであればいいのではないか。学校において、低学年では「知る」ということから始まることはまずない。幼児にしてもまず「する」というところからスタートするため、「する」「みる」「ささえる」「しる」といった順序立てになる。ただ、社会全体に広げる上では、「しる」からスタートしても違和感はないのではないか。

●委員長) 学校教育の上では、教員がまず知り、そこから生徒や学生に伝えていくという流れになっているが、教員が知るのではなく、自分たちが知ることという立て付けであれば、この順番でもいいのかもしれない。41ページの1.2に体験することも入っているが、40ページの1.1では情報発信ということで、まず情報を届け、それを見て体験するという流れになっている。最後には「知る」ということが入ってくると思うが、2つともあるという理解でいいのではないか。

●大人の場合は、知ることからスタートし、最終的に支え、そして深く知るということで、ぐるぐる回っているのではないか。まずは情報発信したものをキャッチしてもらうという意味での「知る」ということで、このままでいけると思う。

委員長) 区としては、楽しみに対してはその手順で広めていっていただきたい。

(2) 意見公募等の結果を踏まえた計画(案)について

〈事務局から説明〉

●資料5のように点線でくくろうとしているのか。

➤事務局) なかなかかっちり決めるのは難しく、〇〇スポーツとくくった時に棲み分けがはっきりできるものとできないものがあると思う。領域についてはファジーであることを表すために点線を用いている。

●基本計画が印刷される時に、このような点線が出てくるのか。資料1では、重複するところはない。例えば、ボッチャが両方にかかることはわかるが、ニュースポーツにもパラスポーツにも入ることがわかるように点線を付けるのか。

➤事務局) 点線にするかどうかは決めていないが、実線ではなく領域が重なっているようなイメージでデザインできないかと考えている。

●球技でも陸上や水泳でも同様、競うだけではなく、レベルに関係なく自分の鍛錬した結果を楽しむ人もいる。水泳であれば、記録を狙う人も参加することだけで楽しいという人もいる。競技スポーツでもあり生涯スポーツでもあり、区切ることは難しい。本当にファジーであると思う。できるだけ囲いが少ないほうが、見ようによっては何とでもなり、皆が納得できるのではないか。

➤事務局) 事務局でもその点は懸念している。デザインをする際には、なるべく明確に区切られるものではないということが伝わるような形で考えていきたい。

委員長) どのようにデザインするかも難しい。

➤事務局) デザインしきれなかった場合には、文言により、資料5の備考欄でも「分類の仕方も上図に限られるものではない」と記載されているが、誤解が生じないようにしたいと思う。

●武道について、区内団体在勤の方の意見を賛同しながら聞いていた。中学校の1、2年生は武道が必修で、柔道か剣道か相撲が例示されており、それ以外でも可能である。そういったことから、この意見は生涯スポーツにもつながるのではないかと思った。

資料1の5ページと資料5のタイトルを比べると、資料1では「スポーツの『概念』」、資料5では『例』となっている。また、資料1の4ページには「スポーツの定義」と「主なスポーツの種類」とあるが、それらは「スポーツの概念」と何が違うのか。どのような形で示せば区民に理解してもらえるのだろうか。e スポーツについては5ページに注釈があるため捉えることができる。主なスポーツの種類は東京都の示す資料を持ってきているが、なぜ武道は入っていないのか。ここは「主なスポーツの種類」ではなく「東京都が示したスポーツの種類」とすべきなのか、「本計画におけるさまざまなスポーツの『概念』」なのか『枠組み』がいいのか『例』がいいのか。カテゴリーが誤解のないようにすべきである。

➤事務局) 資料1の5ページについては、「本計画におけるさまざまなスポーツの概念」と記載したため、在勤の方にいただいた意見としては、ここに書かれていないものは区としては取り組まないのかという印象で、武道が排除されているのではないかといった懸念を持たれたようである。我々としてはそのような意図はなく、ここに記載しているのは一例であるということを表すために『概念』を『例』とした。

4ページの「主なスポーツの種類」については、東京都の整理を紹介する意味もありここに図を引用したが、本計画はこれに基づいて策定しているわけではない。ここも誤解を生じさせてし

まうため、東京都の考え方の引用であることがわかるような記載を検討する。

●東京都でも「主な」という文言を使っているのか。武道の意見を出された方が「主な」ではないと言っていたようだが。

➤事務局) もしかしたら、こちらで、タイトルに「主な」と付けてしまったかもしれない。

●委員長) 武道もここで突然出てくるような感じがするかもしれないが、くくりはとても難しいと思う。いろいろなくくり方があり、理解が得られやすいくくり方の文言があればいいが、くくる文言を入れたほうがいいのかどうかについてはいかがか。

●くくることにより、区民に何か推奨するようなことがあればくくる必要があるが、ないのであればあえてくくらずにいてもいいのではないか。くくると、その分野の説明がその後ろにあるのではないかと思われるがそうでもないようだ。一例として出すのであればくくらないほうが良いと思う。

●くくられてしまうと一見した印象が強くなってしまうため、そうならないほうが良いと思う。また、着順を競うのも勝ち負けを争うのも競技であり、あえて「競技スポーツ」というくくりを設けなくても良いと思う。

●資料5の『例』という言葉が、とてもマッチングしていると思う。『例』という言葉により柔らかい印象になる。『例』がタイトルとしてあれば、内容も例であると考え1つの枠組みとして捉えることができる。『例』という言葉の重さがあるのではないかと感じる。

●委員長) 分類も例であるため、「分類例」とすべきか。ここでは、ニューススポーツやアーバンスポーツ等のいろいろなスポーツがあることを知っていただきたいという意図で示したページではないか。

➤事務局) 本計画に出てきた時に、どういったものであるか視覚的に理解する助けになればということで入れた。

●活動例としてドッジビーやモルックやeスポーツを掲載したため、それらの名称を点線で囲むことになったのではないか。思い切って書かないことにするのは乱暴か。例があったほうがわかりやすいとは思いますが、競技を記載するせいで横断的になってしまう。パラスポーツ、ニュースポーツ、アーバンスポーツだけではイメージがうまく浮かばないのだろうか。

●委員長) 絵にしてしまうのはどうか。

●「パラスポーツ」という言葉もいろいろなところに横断的になるため、くくり方にとても苦慮している。この図の難しさがよくわかる。

●委員長) パラスポーツ界ではどのように対応されているか。

➤委員) 「パラスポーツ」としか記載しないことが多い。今は、「パラスポーツ」と表し「障害

者スポーツ」とはくくっていない。ルールを工夫すればいいということになっている。「ゴールボール」と書いたりすると、「パラスポーツ」イコール「ゴールボール」のようになってしまう。

しかし、競技名を書いたほうがわかりやすいため「等」と付けたりする。

委員長) 図表に「例」や「等」を入れたりしている。

●このページの意図としては、これから先を読み進めていくにあたっての一助となるため、これらを例示しているということか。

➤事務局) 東京都の図を示したところ、本計画にもどういったものがスポーツなのかという定義のようなものを示したほうがいいのではないかという意見があり、それが一覧でわかるようにした。結果として、ニュースポーツ、パラスポーツ、アーバンスポーツ、マルチスポーツを記載したことで、後々読み進めていく中でわかりやすくなると思う。

●スポーツという大きなくくりの中で、いろいろなくくり方があり、それを1ページで平面で見ってもらうのはとても難しい。この1ページは「スポーツ」とし、その中にありとあらゆるスポーツを入れてしまってはどうか。最近、あるテーマに関するワードをどんどん入れることで、数の多いワードが大きくなっていくといったものをよく見る。混沌とした状況の中に散りばめられているものを見たことがあるか。そのような感じで散りばめれば、くくらなくてもよく、スポーツとはこんないろいろあり混沌とした世界であるということを知らしめることができるのではないか。競技名を並べるだけでなく、〇〇スポーツという名称も並べ、思い切ってすべての言葉や絵をぐちゃぐちゃに載せてしまえば簡単である。しかし、この先のことを考え、より理解をしやすいするためには、ある程度くくらなければならないとわかるようになった。

●委員長) この図の後に、アーバンスポーツ、ニュースポーツ、パラスポーツは出てくるか。

➤事務局) 出てくる。この図をどういう意図でここに載せるのかということが大事になってくるのではないかと思う。計画を読み進めていった時に、ニュースポーツやパラスポーツとは何なのか、フレーズを見ただけではどういう位置づけか初めて読む人には受け取りにくいいため、本計画に出てくるスポーツを確認できるページとして設けた。ただ、くくり方が非常に難しく、〇〇スポーツという名称だけでもわかれば目的は達成できるのかもしれない。各スポーツの詳細は後ろに用語解説もあり、そこを見てもらいつつ、本計画には〇〇スポーツというワードが出てくるということを知ってもらうページとしてあってもいいのかもしれない。

●委員長) 今ある図のようにするのではなく、用語解説の説明を載せるのか。

➤事務局) 説明を載せるのではなく、イラストとデザインで〇〇スポーツを示し、詳細が知りたい人は後ろの用語解説を見ることができる。まずはいったん、本計画の中に出てくる言葉を一目で確認できるようなページにするといいのではないか。

➤事務局) 個々の競技名というよりは、分類名を表示するような図であった。活動例のところでも細かく書いてしまうと、そのスポーツが別のくくりにもあてはまるのではないかといった話も出

てきてしまう。そこを正確に表示することは不可能かもしれない。人によって感じ方も違う。個々のスポーツの代わりにイラストを入れ、分類的には〇〇スポーツといった言葉はここでわかるようにするといったイメージでよいか。

●委員長) 本計画におけるスポーツの分類例という形にして、〇〇スポーツといった載せたい用語に絵を入れていくというような感じになるか。

●武道についてもイラストを入れたほうがいい。

委員長) それは大事である。千代田区の推進しているスポーツは記載していくことがいいと思う。

➤事務局) 本計画においては、競技名というよりはいろいろな分類がわかるような表に整理した形にしたい。人によっては真剣に臨むものも楽しむものもどちらも立派なスポーツであり、そのことがうまく表現できるといい。

委員長) 本計画におけるスポーツの分類例ということで、かなり限定され、かなりぼやけるのでいいと思う。

事務局) 正確な分類をすることは不可能である。

委員長) その分野の先生方も苦労され、奥深い課題であり、それをこの一面で表すのは難しい。

(3) その他

3. 事務連絡

今後の予定について、事務局から説明

4. 閉会

委員長) 第4回千代田区スポーツ振興基本計画策定委員会を閉会する。皆さんありがとう。